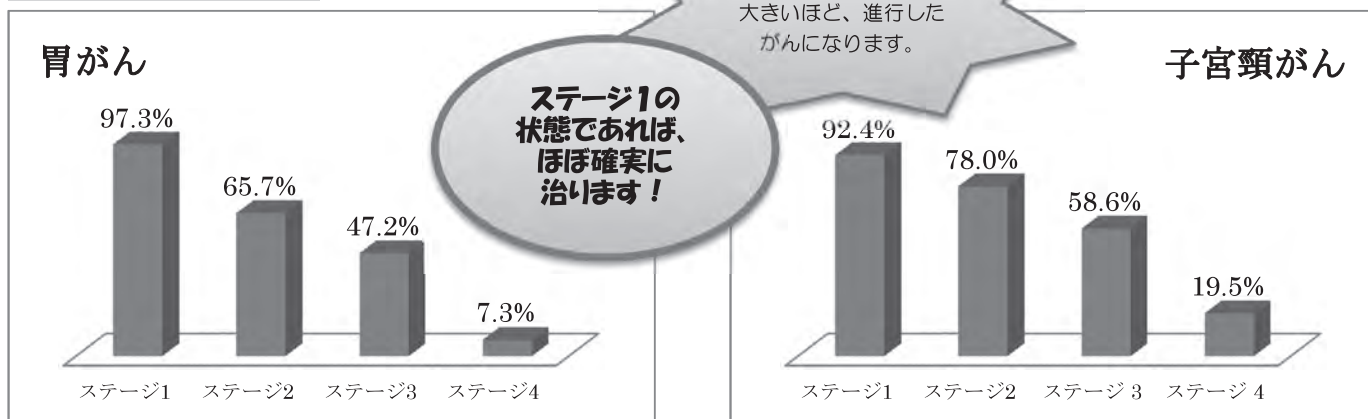


1981年から、ずっと変わることなく日本人の死因の第1位であり続ける【がん】。日本人の2人に1人はがんにかかり、3人に1人はがんで亡くなると言われています。がんは早期に発見されるほど治癒する確率が高まると言われていますが、日本人のがん検診受診率は諸外国に比べて半数近く低いのが現状です。

健康せきかわ21 いきいきライフ

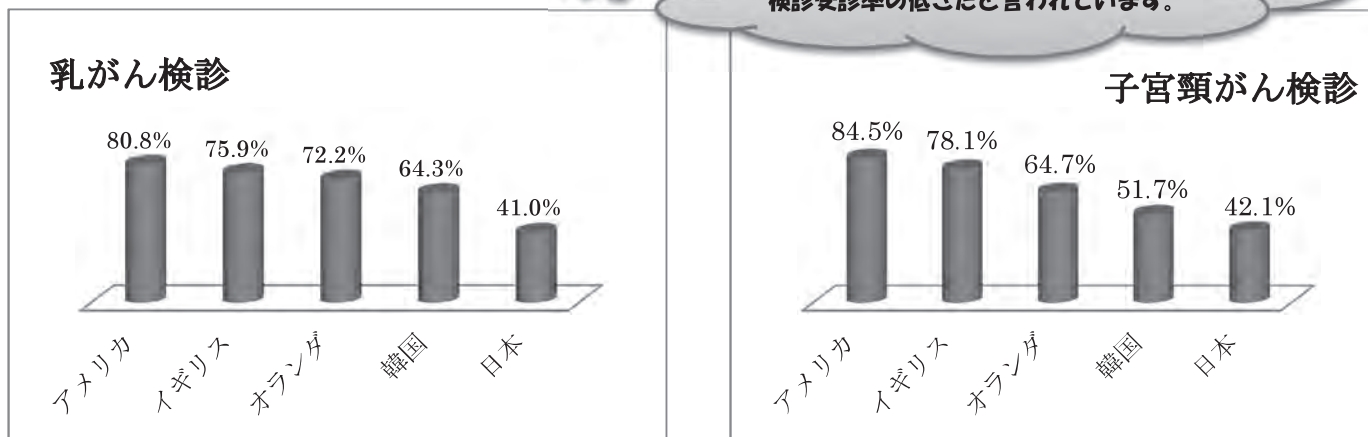
死因のトップ【がん】から命を守るために…

がんの5年相対生存率



※5年相対生存率…がんと診断された人のうち5年後に生存している人の割合が、日本人全体で5年後に生存している人の割合に比べてどのくらい低いかを数値で表したもの。

日本と諸外国のがん検診受診率の比較



後悔しないために、がん検診を受けましょう！

がんになっても、初期の段階では多くの場合ほとんど症状がありません。症状が現れた頃にはがんがすでに進行していて、手遅れになってしまうケースも少なくありません。がんから命を守るためには、症状がなくても定期的に検診を受けて、がんを早期に発見することが大切です。

早期発見があなたの命を守ります。
ぜひ、村のがん検診をご活用ください！



関川村包括支援センター通信⑦

地域包括支援センター 役場庁舎内1階 ☎64-1473

高齢者見守り強化月間

新潟県では、2月、9月を高齢者見守り強化月間として県民総ぐるみで見守り、支え合う地域づくりの体制構築や、高齢者と地域に関する県民の理解と関心を深める月間としています。

県では、企業・団体が日常業務の範囲において、ひとり暮らし高齢者等の異変を察知した場合に行政窓口へ連絡する見守り協定を15団体と結んでおり、村でも郵便局、下関新聞販売所と見守り協定を結んでいます。村の高齢化率は約40%と上昇しており、日中は高齢者のみで過ごす世帯が多くなっています。積雪の影響や野外での活動が減る時期に一人ひとりができることを考えてみませんか。

■**高齢者自身ができること**
・元気でいることを発信する（電話をかける、カーテンを開ける等）
・億劫がらずに外出する
・困ったときには、我慢せ

ずに相談する

・温度変化に注意する（入浴など）

■**地域の方ができること**

・あいさつなどの声かけ
・さりげない見守り（カーテンが開いているか、電気がついていないか等）
・見慣れない人が出入りしている様子がないか（悪徳商法の被害防止）
・異変の察知（不自然な服装やケガをしている、同じことを何度も言う）

■**企業・団体ができること**

・行政や地域住民の目の届きにくい時間帯の見守り
・対応中の異変に気付く（悪徳商法や特殊詐欺被害の有無や認知症の兆候等）

認知症の兆候がある、虐待の疑いがあるなどいつもと違うと感じたときは、民生児童委員や地域包括支援センターにご連絡ください。お知らせいただいた方の秘密は固く守られます。

健康講座

154

腸の手術は腹腔鏡手術がいまや標準

県立坂町病院 外科 富田 広

腹腔鏡手術に関しましては、この誌面でも何回か掲載させていただいております。腹腔とは「お腹のなか」ということであり、胃や腸がおさまっている空間のことです。腹腔鏡とはお腹の中を観察するカメラのことです。お腹に小さい穴を何か所かあけて、その穴からカメラや特殊な道具をお腹の中に入れて、テレビモニターを見ながら手術を行う方法のことを腹腔鏡手術と呼んでいます。腹腔鏡手術の最大の利点は傷が小さいため、手術後の回復が圧倒的に早いということです。

坂町病院外科では胃や腸の腹腔鏡手術を新潟県阿賀北地区の病院ではいち早く本格的に導入して行っており、それから早や10年になります。この間にも器械がより良いものが開発され、さらに我々外科

医の技術も向上することにより、より傷が小さく、より手術時間が短い、患者さんにとつてはよりダメージの少ない手術が可能となっております。

坂町病院外科では病院の規模の割には多くの腹腔鏡手術を行っておりますが、何でもかんでも腹腔鏡で手術を行っているというわけではありません。腹腔鏡手術も利点と欠点があり、この点を十分に考慮し、お腹を大きく切り開く手術（開腹手術）の方が良い場合には無理に腹腔鏡手術は行わないようにしております。そうすれば腹腔鏡手術は決して危険な手術ではなく、安全な良い手術だと考えています。10年前の頃は胃や腸の腹腔鏡手術はまだ先進技術であり、行っている病院は少数派でしたが、今や腸の手術に関して

療となっておりまして。これはいわゆる医学の進歩なのだと思います。我々外科医も時代の流れに乗り遅れないように修練していかなければならないと痛感しています。しかしながら、医師の中にも未だに「腹腔鏡手術は危険な手術だ」とか「面倒くさい」という認識を持った先生がおられることには驚かされます。皆様も万が一、腸の手術を受けることになってしまった場合、医師から何の説明も無く、大きくお腹を切られる開腹手術をされそうでしたら（全例腹腔鏡で手術ができるわけではありませんが）、そこで手術を受けることを考えた方が良くありません。患者さんも標準的な治療を勉強する必要があります。と、思います。



*このコーナーへのお問い合わせは、県立坂町病院へ。

☎62-3111